



## 2つの手

校長 伊勢 明子

人が生き生き前向きに頑張る原動力は、つくづく「やる気」や「意欲」と感じます。幼い子供も齢を重ねた大人も同じと考えます。能力や才能があっても「やる気」や「意欲」がなければ、そのよき力を開花させることは難しいといえます。すばらしい可能性をもった子供たちが存分に力を発揮するために、大人には、どのような姿勢が必要でしょうか。以前、尊敬する大先輩から以下のようなお話をいただいたことを思い出しました。

「2つの手をもちなさい。」

1つは、大きな手です。孫悟空がどんなに暴れ回っても、お釈迦様の掌から出ることができなかったという話のように、子供たちがどんなことをしても受け止められる大きな手をもつことです。子供はよい行いもしますが失敗や間違え、また、悪いこともします。その時、子供は、本能的に大人の反応を試し、度量を図り、物事の価値を正しく教えらることで愛されているという安心を得ます。そして、次の階段を上っていきます。

もう1つは、見えない手です。ある日、お釈迦様が散歩の途中で下界を見下ろしていると、一人の男がぬかるみにはまった大八車を必死に動かそうとしていました。半日、汗びっしょりになって、あれこれと知恵を絞りながら努力しています。それをじっと見ていたお釈迦様は、そろそろよい頃だと見えない手で、大八車をそっと押しました。今まで動かなかった大八車が動き出しました。男は、自分の努力が報われたと思い、意気揚々と大八車を引いて行きました。額の汗も苦労も、満足と自信になっていました。私たち大人は、とかく子供を枠にはめて規制しすぎたり、子供の思いを知らずに判断してしまったりしがちです。忙しい日々の中で結果や結論を急ぐあまり、すぐ手助けや助言をしてしまいます。子供の頑張りを認め、自ら達成できるように仕向ける大人の姿勢が子供を大きく成長させるということです。

子供たちの行動をすべて受け止めることのできる大きな手と豊かな成長をそっと支援する見えない手もちたいものです。

### 5月の生活目標 『友だちと仲良く過ごそう』

生活指導部

新学期が始まり、1か月が過ぎました。子供たちも学校生活に慣れ、目を輝かせて学習に取り組み、友達と仲良く関わっている様子が見られます。

今月の生活目標は「友だちと仲良く過ごそう」です。言葉の選び方、使い方で、友達と仲良くなることができます。

- ① 気持ちのよい「あいさつや返事」をする。
- ② 「どうぞ」「ありがとう」などの温かい言葉を使っていく。

☆温かい言葉：ふわふわ言葉  
冷たい言葉：とげとげ言葉

と表現することもあります。

新しいクラス、新しい仲間との出会いを大切にする方法や、やさしく友達と話す方法などを話題にして、子供たちとともに、考えてみてはいかがでしょうか。